



# 令和元年 第10回 飯舘村議会定例会

令和元年12月議会定例会は、12月13日から20日までの日程で開かれました。一般質問は17、18日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。議案審議は20日に行われ、提出された議案は追加議案を含めて全て原案どおり可決されました。

## 第6次総合振興計画策定

9月13日に第1回「6次総合振興計画策定委員会」を開催し、来年9月の村議会に計画書を提案できるように今後のスケジュールなどを確認したところです。

現在、村民アンケート調査の取りまとめを行っており、まとも次第、村民にお知らせしたいと考えています。

また、計画策定にあたっては、これまでに策定委員会2回、4つの専門部会各3、4回、さらに4部会合同の先進地視察研修（会津二島町）などを実施し、それぞれ村の将来像に向けた課題の整理と具体的な事業内容などについて精力的に協議・検討をしていただいています。

## 令和元年度第3回行政区長会議

10月3日に、令和元年度第3回行政区長会議を開催しています。9月議会定例会及び臨時会合の議案の報告や、各課の各種施策について説明し、意見・要望等を受けています。

## 今議会で可決された議案など

（紙面の都合上、一部省略しています）

- 令和元年度一般会計補正予算
- 令和元年度国民健康保険特別会計補正予算
- 令和元年度簡易水道事業特別会計補正予算
- 令和元年度農業集落排水事業特別会計補正予算
- 令和元年度介護保険特別会計補正予算
- 飯舘村森林環境譲与税基金条例
- 会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例
- 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例
- 印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

## 村長村政報告

（紙面の都合上、一部省略しています）

### 台風19号の被害状況

10月11日から12日にかけて本村を襲った大型台風19号は、村内に甚大な被害をもたらしました。降雨量が346ミリ、死者1人、床上浸水2件、床下浸水3件、宅地周辺・昇口等の崩壊流出111件、大倉簡易水道施設の決壊、村道・農林道陥没決壊130か所（うち通行止め箇所5路線）、普通河川2か所、水田・畑・用排水路等219か所、農業用ハウス2棟など、被害総額は約15億円と見込んでいます。

現在、被災箇所の特定と、国の補助災害及び村単独災の振り分けを行い、農地については所有者と協議をしながら復旧に向けた取り組みを行っているところです。なお、補助災害の査定は12月中の実施を予定しています。査定終了次第、早期復旧を目指します。特に農地は、春の作付等に、できるだけ支障のないよう取り組んでいきます。

## 帰還困難区域における復興・再生拠点区域外に対する対策

現在、長泥地区特定復興・再生拠点区域外では、集会所、公園などの整備計画をはじめ、建物の解体、除染が進められています。農地では、除去土壌を活用した環境再生事業の試験栽培などが実施されています。

一方、拠点区域外については、今後の国の方針が具体的に示されておらず、地区内と地区外の住民に大きな格差が生じており、この格差解消が当面する重要課題となっています。

地区内と地区外の格差をできるだけ少なくするため、同じ帰還困難区域を抱える6自治体（大熊町、双葉町、富岡町、浪江町、葛尾村、飯舘村）で、昨年12月に、「原発事故による帰還困難区域を抱える町村の協議会」を設置しました。11月7日、復興庁、環境省、経産省、内閣府などに対し、特定復興再生拠点区域エリアの拡大、拠点区域外の除染家屋解体の実施など、格差解消のための要望活動を行ってきたところです。

## 農政関係

避難指示解除後3度目を迎えたこの秋に水田約45haで稲刈りが実施され、うるち米やもち米、飼料用米、酒米、ホールクロップサイレージが収穫されました。

これらは、11月中旬までに全量全袋検査等の県が定めるモニタリング検査を完了し、全て放射性物質濃度が検出限界値未満であったため、主食用米のほとんど及び飼料用米の全量がJAに出荷されています。

村内で生産された野菜などのうち、11月中旬までに県の緊急時モニタリング検査を受検したものは、生産農家28件で延べ118検体、70品目にのぼっており、この他、村の非破壊式測定器等で自主検査をした約1000検体のうち約450検体の野菜類は、そのいずれについても食品放射能基準である1キロあたり100ベクレルを大きく下回っており、自家消費分を除く野菜類の一部が「道の駅までい館」で販売されています。

## 鳥獣被害対策関係

鳥獣被害対策実施隊20人により、4月から11月中旬までに、イノシシ392頭、サル9頭の駆除を実施しました。また、村内で農業に携わる方の圃場については、ご希望に応じて順次、電気牧柵やサル対策用フェンスの導入を進めています。

## いたてプレミアム付商品券

県の事業再開・帰還促進事業の交付金を受け、7月1日からいたてプレミアム付商品券を販売しています。10月末までに、村民や村内事業所に勤務している方に9282冊を購入いただきました。また、この交付金を活用して10月27日には交流センターふれ愛館で、村商工会がいたて秋祭りを開催しました。

## 宿泊体験館「まじろ」

4月から10月末までの全体利用客数は5507人で、うち宿泊利用者が1847人となっています。村内はもちろん村外からも多くの皆さんにご利用をいただいています。

## 学校教育関係

10月23日に第3回目となる義務教育学校開校準備委員会を開催しました。会議では、県に提出した義務教育学校の設置協議書に対し、県より10月7日付受理した旨の回答書をいただいた件をはじめ、校歌作成などの開校に向けた準備の進捗状況について、報告、協議を行いました。進捗状況は概ね予定どおりですが、今後も準備委員会や説明会を開催しながら、開校までに必要な準備を進めていきます。

## 生涯学習関係

10月26日、27日には、第36回いたて村文化祭を開催しました。今年の文化祭は総合文化展を、いたてっ子発表会「赤蜻祭」と同会場の中学校体育館で開催し、ステージ発表は、いたて秋まつりと同会場の交流センターで実施しました。当日は、780点を超える作品展示と小学生、中学生を含む、村内外の各種団体による舞台発表があり、1000名を超える村民が来場しました。